

第18回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成27年2月23日(月) 9:45~12:00

場所:いわき市文化センター 1階 大講義室

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:福島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:安岡研究調整官(代理)

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長

環境省:二村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:吉田事務局長補佐、江口対策官、豊口企画官、
三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、岡山対策官、
小野対策官、小形汚染水対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永所長、有賀審議役

東京電力:増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、白川福島第一原子力
発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日も御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○来月は事故発生から4年となる節目を迎える。これまでの間、1Fの現場では様々な対策が取られ、着実に廃炉作業が進んでいるところだが、今後とも引き続き、本現地調整会議で現場の工程を管理し、円滑に廃炉が進展するよう、議論したいと思う。

○一方、廃炉を着実に進めていくためにも、現場の安全対策が重要。前回の現地調整会議において、1F等で発生した人身事故の安全対策について議論を行ったが、今回はそれをさらに展開・深掘りして、災害発生の原因分析や再発防止対策、安全性向上対策について議

論したいと思う。

- 1号機建屋カバーの解体・ガレキ撤去の計画等については、3月からのカバー解体・ガレキ撤去のスケジュール等についてや、解体時のリスク低減対策についても説明いただく。
- 多核種除去装置（ALPS）、及び、汚染水浄化処理設備については、各装置の運転状況や処理の進捗状況、工事進捗状況について説明いただく。
- 海水配管トレンチの閉塞工事については、2，3，4号機の閉塞工事の進捗状況について報告いただく。
- 陸側遮水壁工事については、各工事の進捗状況や計画申請、認可等の状況や、陸側遮水壁閉塞後の水位管理、原子力建屋への水位計の設置等について説明いただく。
- タンク設置等については、タンクの建設進捗状況、水バランスシミュレーション等について説明いただく。
- その他、フェーシング、堰内の雨水処理、1～3号機の溜まり水の調査、構内外車両スクリーニングの合理化、等についても進捗状況の報告を受ける予定。
- 本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いする。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題1

<資料1-8>

- 側溝モニタの高高警報について、原因究明は難しいことは理解するが、原因がわからないと漁業の方々含め、また同じことがあるのでは無いかとってしまうので、あらゆる知恵を絞って原因究明と対策をしっかりと進めるようにすべき。原因がわからない場合は絶対出ないための備えを設けるべき。

議題2

<資料1-2>

- 1号機ガレキ撤去について、資料では『強風が見込まれる場合は散水』とあるが“強風”とは何か。強風の定義をどう考えるかが管理上重要となると思われる。一定以上の風が吹けばどうなるか評価し強風について定義すべき。
- 一昨年発生した南相馬での稲の放射性物資の付着について、発生から1年以上経つが原

因はまだ特定できていない。国としても原因究明に取り組んでほしい。

議題3

<資料1-3>

- 作業員の人身事故発生を受けて、事例検討会の実施や講演会の開催など作業員の意識を高める取組を行っていることを評価したい。今後、新たな作業に着手するときや新たな作業員が加わってくるので、一過性の取組みに終わることなく、緊張感をもって組織的に持続可能な安全の取組をお願いします。
- 事故が起きると現場の作業員含めてモチベーションがかなり下がる。事故発生を受けて規制をしていくのは仕方がないが、現場のモチベーションを保つ工夫も必要。福島県も霞ヶ関も政治家も東電も現場作業員も同じ感覚をもてるように努力してゆくよう、宜しくをお願いします。

議題8

<資料2>

- 許認可の手続きの遅れが現場に影響を及ぼさないようにするべき。
- 許認可について、規制当局の立場は安全性について判断し、許認可をしているもの。サブドレンを稼働することによって、埋設物から汚染水が漏れ出す恐れについて詰めているところであり、これは必要な手続きである。
- トリチウムは科学的には放水しても大丈夫とは言われるが、科学的知見が無い漁業者あるいは食べる消費者にとってはすぐには理解されない。サブドレンの丁寧な説明をしているなかで、科学的に安全であっても住民の安心とは違う。知識があったからといって人間の心理としては安心とはならない。トリチウムについての考え方が浸透するような情報発信の仕方を考えてやるべき。
- この1年のあいだに作業員の数は3千人から7千人に増大した。中長期の人員配置について、どこの作業部分は減って、どこは増えるのか見通しを示すべき。東京オリンピックの準備が首都圏で進む中で人の手配は大変となる。事業者との連携を密にすることが重要となってくるので、どこかで見通しを示すべき。
- タンクの来年度の建設計画を次回会議で示すこと。

(3) 次回以降の日程

○次回は3月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)